

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

左京小学校での野外活動支援 活動報告書

国語教育専修 2 回生 吉岡 優来

1. 実施日 2023 年 5 月 17 日 (水)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 英語教育専修 4 回生 川口 綾菜
英語教育専修 3 回生 苗代 昇妥
特別支援教育専修 2 回生 才田 優佳
国語教育専修 2 回生 吉岡 優来
美術教育専修 2 回生 東 瑞

4. 活動の概要

奈良市青少年野外活動センターで、左京小学校の野外活動支援を行った。野外炊飯とキャンプファイヤーでの補助を行った。

5. 参加学生の学び・感想

私は左京小学校の野外活動支援を通して、子どもたちの内面の成長を感じることができた。特に飯盒炊飯では、ご飯・カレー・薪の 3 つの役割があり、子どもたちは責任感をもって自分の役目を果たしていた。その中で、ある児童が「私はご飯の係じゃないから」と言い、ご飯係の児童たちが作業をするのをただ座って見ていた。しかし、他の児童が「一緒に手伝おう」と声をかけたことで、最後には班員全員で飯盒炊飯に取り組んでいた。時には役割にとらわれずに協力することも、よいことであると学んだのではないだろうか。私自身も、このような児童の様子から、責任をもって取り組むことや、柔軟に連携することの大切さに改めて気づくことができた。(英語教育専修 4 回生 川口 綾菜)

今回の活動を通して私が学んだことは、キャンプファイヤーのスタンプ実施時における、声掛けの大切さである。キャンプファイヤーでは、子どもたちがスタンプを行うときに大切なことを復唱したり相槌を打ったりして盛り上げるための声掛けを行った。今回、スタンプの一つにおいてリーダーのルール説明が上手いかわず、順調に進まないことがあった。そのとき、補助に入っている私たちがうまく進行するように声掛けを行うことができ、無事にスタンプを終えることができた。補助として、上手く進んでいないときは助けることができるように、常に状況を把握して適切な対応を取れるように準備するようしておく必要性を理解できた。このような点に留意しながら今後も野外活動支援を行っていきたい。(英語教育専修 3 回生 苗代 昇妥)

私は今回の野外活動支援で次の 2 つのことを学んだ。

1 つ目は子どもたちを信じることの大切さである。子どもたちが野外炊飯で包丁を使っている際に、「危ない」と感じる場面があったが、手伝わずに見守ることにした。すると子どもたちは自分の力で成し遂げていた。そんな健気な様子に感動し、子ども達のできることを信じ手助けをしないことが、子ども達自身の成長になることもあると学んだ。

2 つ目は様々な感情をもつ子がいることである。それはキャンプファイヤーの時に感じたことである。

楽しそうにしている子もいれば、しんどそうにしている子、また怖そうにしている子もいた。様々な思いの子がいることを頭に入れつつ、今後の活動をしていきたい。また、どのような子どもにも寄り添える人になりたいと考えた。
(特別支援教育専修2回生 才田 優佳)

今回、初めての野外活動支援に行き、「楽しさ」の認識の大切さを学んだ。野外炊飯やキャンプファイヤーは、児童たちにとっては非日常であり気分も上がるものである。その「楽しさ」は重視されるべきものである。しかし、円滑で学びのある活動にするためには、「ふざける」ことはしてはいけない。それらの線引きは、友達と注意しあい、先生の話をしっかり聞こうとするなど、児童に意識によってされていた場面が何度もあった。支援する際にも、その「楽しさ」の線引きを子どもたちに意識してもらう工夫をすべきであると感じた。
(国語教育専修2回生 吉岡 優来)

私は野外活動の支援を通し2つのことを学んだ。第1に、緊張は児童との間に溝を作るということだ。短い時間で彼らと打ち解けるためには私たちに向けられた警戒心を解く必要がある。親しみやすい言葉遣いや表情を心がけたい。第2に、彼らが持つ火の危険の認識は低いということだ。支援中、火に飛び込んでいく子供たちの姿が印象深い。誰かのけがでキャンプを台無しにすることは絶対に避けなければならない。この2つの学びを次の機会を活かしたい。
(美術教育専修2回生 東 瑞)



キャンプファイヤーの様子